

平成26年度 第3回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成26年9月28日（日）13:00～14:50

場所：市役所 第1委員会室

出席者：佐々木(重)会長、山崎委員、永田委員、木下委員、熊谷委員、佐々木(祥)委員
須山委員、西塚委員、中島委員、森下委員、矢島委員、（11名／13名中）
佐藤行財政改革推進本部本部長、小池総務部長、三浦人事課長、今村財政課長、
事務局

欠席者：吉川副会長、小島委員

1 開会（佐々木会長）

2 あいさつ

（佐々木会長）

第2回行革推進委員会事前勉強会を踏まえ、委員から出た多くの意見を反映し策定に向けた議論をしたい。現状と課題についての意見を出してほしい。

（佐藤本部長）

前回の事前勉強会で説明した飯田市公共施設の現状と課題の内容を中心に議論したい。

3 協議事項（進行：佐々木会長）

（1）飯田市公共施設の現状と課題について

・内容説明（今村財政課長）

飯田市公共施設の現状と課題に関し、委員から提出された意見の取りまとめ結果を説明。①現状と課題に対する意見 ②基本方針策定に関する意見 ③分野別検討に関する意見の3分類とし進めていく。本日意見交換し12月は基本方針案として示し、3月に基本方針の策定、H27年度は分野別の検討について具体的に検討していく。

①現状と課題に対する意見について（P1, 2）

・提出した各委員からの個別意見について→ 追加意見なし

・熊谷委員

市民と議論をするための市民の選考や市全体の市民の選考方法はどうか。

→分野別については、地域単位や関係者など、施設や目的別、施設の性格により関係者と意見交換したい。市全体としては行財政改革推進委員会により進めたい。（今村課長）

②今後の基本方針策定に関する意見について（P3）

・提出した各委員からの個別意見について→ 追加意見なし。

・佐々木会長

12月末に案を策定するが、今回出された意見も参考に策定されたい。

今後、税収減や人口減が想定されるので、そこからのサービスの向上は難しいと思うが、このような状況でも最大限のサービス向上を目指してほしい。

・熊谷委員

表現の中で「ガマンしてもらおう」との表記あるが、ガマンの範囲はどこまでか。

→多くの施設をどんどん作っていく時代でないことを市民の皆さんに理解してもらうことが必要。施設は個別や分野別にも関係者が多いため多くの意見が出てくる。このため施

設全体を市民と一緒に議論し先を見据え、関係者が理解し納得したうえで、ひとつの目的だけでなく、様々な目的に利用するなど廃止、複合などを検討し、それぞれの目的のために施設を残したい。また現状も理解してもらいながら進めたい。（小池総務部長）

③分野別検討に関する意見について（P4.5）

・提出した各委員からの個別意見について → 追加意見なし

・平成27年度以降は関係者と分野別について、現状と課題、基本方針を踏まえ検討する予定。提出意見については担当課に趣旨を伝え参考にしていく。（今村財政課長）

・熊谷委員

教職員住宅は一部空き家があり草が生え環境が良くない。空き家等の活用はどうか。

→不適切な管理でお詫びします。空き家の具体的な取組みについては平成27年度からの分野別において検討します。（今村財政課長）

・須山委員

教職員住宅は異動に対応するため空室が必要とあるが、民間アパートの活用など幅広い視点での検討が必要では。

→ご意見としてお聞きします。

・山崎委員

教職員住宅について一定数の空室が必要であるための根拠を示すことが必要では。

→実際には地域振興住宅に転用して活用しているところもある。地域によっては住宅が必要なところもあるので、地域性を踏まえながら他の用途に積極的に有効活用することも考え検討します。（今村財政課長）

・佐々木委員

民間の多くは借り上げ社宅である。教員住宅も山間部以外は民間アパートの活用など他の用途に転用や廃止が妥当と思われる。

文化施設については、将来に役に立つものであるので飯田市民だけでなく広域的に考える必要がある。

→ホールを有する3施設をどうするか議論し、文化施設の目的達成のためにどのようにするのか、リニア時代に向けての議論も合わせて検討する必要がある。（小池総務部長）

（小池総務部長）

今後は飯田市全体の基本的な考え方を集約することになる。個別意見も出される中で期限等を決めて具体的に取る必要があるとの意見もある。この委員会は意見を出していただくところで結論を出す場ではないと考える。多くの関係者がいる中で削減の目標数値を決め、具体的な数値を示し取り組むことは考えていない。

飯田市はこれまでも、市民との議論から解決策を考え検討してきた経過もある。保育園の民営化がよい例。市民の方の高い見識に期待しながら、議論により結論を見つけて実行したい。市議会からも急がず市民や関係者とじっくり話し合い、理解を得ながら次へ進めてほしいとの意見があった。

推進委員会からも具体的な意見があるため、この意見を議論の場へつなげていく必要があるので、意見の反映等についても工夫したい。（小池総務部長）

・熊谷委員

県民文化会館の誘致は可能か。

→次のステップを考えていく場合には長野県、民間、広域なども想定しながら次へ進めていくことも考える。長野県も飯田市と同じ財政状況である。（小池総務部長）

- ・佐々木委員

長野市、松本市は冬季オリンピックにより施設が整備されている。飯田市もリニアを材料にPRし県内格差がないようにしてほしい。長野県からの補助についても検討を。

- ・須山委員

リニア開通まで13年程。施設整備には十分な議論が必要ではあるが、ある程度計画的に進めリニア開通に合わせる必要もあるのでは。議論も必要だが期限を定めて決めていくことも必要ではないか。

- ・中島委員

ある程度市として全体の方向性を示さないと結論が出てこない。総論賛成、各論では考える方も出てくる。もう一步踏み込むことも必要であると思う。

- ・佐々木会長

現状と課題について他の意見がある場合は事務局へ連絡を。委員会として答申する立場なのでよろしくお願ひしたい。

(2) 平成26年度指定管理終了施設の実績評価及び今後の方針について

- ・平成26年度末で指定管理が終了する18施設について、今後の市としての考え方を示したものの。このことについて意見を伺う。別紙資料により説明（今村財政課長）

- ・木下委員

指定管理のコストについての扱いはどうか。収支の説明が無いと検討ができない。

→収支やコストに関わる資料は次回委員会時に提示する。（今村財政課長）

- ・山崎委員

指定管理者の施設の利用料や赤字の場合はどのような扱いか。

→指定管理料の中で運営し、赤字の場合も指定管理者が負担している。（今村財政課長）

- ・中島委員

実績評価表、今後の運営方針の検討については長期展望も加味しているか。

→指定管理者制度は今ある施設をよりよくしていくことを目的として検討している。

（今村財政課長）

(3) 飯田市行財政改革大綱における改革プランについて

- ・平成25年度実績、平成26年度計画に対する考え方について意見を伺いたい。資料に基づき事務局より説明（今村財政課長）

- ・山崎委員

病欠等で休職職員により減員になるが、市民サービスに影響がないよう補充も考えるべきでは。

→職員数は定員適正化計画に進行管理している。前期の計画では合併前の水準に戻す計画で77人の削減ができたが、今期の計画では事務事業の廃止や民営化などがなければ難しい数値だと認識している。休職している職員の分は他の職員がカバーしており定員適正化計画とは関係ない。（三浦人事課長）

- ・中島委員

特定の職員が夜間遅くまで勤務している。削減によりしわ寄せがあるのではないか。

→特定部署での超過勤務の把握は行っている。課長等のヒアリングや全体の労働時間を見て配置したい。健康診断も実施しており体調管理も行っている。（三浦人事課長）

- ・木下委員

議員報酬や政務活動費については適切か、また議員定数の適正化についてはどうか。
日当制や年俸制にするという発想も必要ではないか。

→政務活動費は年額十数万円で会派に交付される。調査すべき活動に使われているのが実態であると思われる。定数については議会と市民との間で議論が必要になってくる。報酬については報酬審議会により審議している。（小池総務部長）

- ・佐々木委員

飯田市立病院は飯田市以外の利用者が多いのでは。広域連合として経営する考えは。

→広域連合で経営することにより責任分散されることが考えられ、あまりメリットが無いと思われる。広域的な立場としては、設備や機器を整備するために広域基金から5億円病院へ支出している。病院は飯田市が中心となって責任を持って運営することが良いと考える。（佐藤本部長）

- ・佐々木会長

改革プランでは、H25計画と実績やH26計画の記載があるが、実績・反省などについての検討が全体的にゆるいと感じる。P D C Aとして取り組む必要があるのでは。

ふるさと納税については全国の市町村により格差がある。飯田市としてのアイデアはあるか。例えば農業振興につなげるなど、総体的に真剣に取り組んでほしい。

- ・熊谷委員

改革プラン資料P4、職員数が減になることにより市民サービス低下につながるのではないか。職員の中には市民と顔を合わせても返事をしない職員がおり、質が良くないと感じることもある。仕事さえできれば良いということではなく、プラン内容を見直すことが必要ではないか。

→市民サービスの向上は重要な課題なので継続的に取り組んでいる。あいさつは社会人としての基礎。ご指摘の意見については全庁的に改善していく。（三浦人事課長）

- ・佐々木会長

大切な意見なので意見として反映させてほしい。

- ・須山委員

正規職員と非正規職員の割合はどうか。

表記の方法について。非正規職員の配置により正規職員でなくても対応が可能であるところの説明があると安心できる。「正規職員の配置により市民サービスの低下はない」などの表記も必要ではないか。

→第5次定員適正化計画では、民間委託の実施などで計画以上の減員ができた。今期の定員適正化計画では20人の減員を計画しているが、事業の民間委託などがなければ実現は難しい段階に来ている。今回の計画では市立病院の職員を対象外としている。高度医療や地域医療のためには一定程度のマンパワーが必要である。正規職員の他に時間パートの職員を含む臨時職員を任用している。（三浦人事課長）

4 その他

次回は12月頃、資料の説明会として開催したい。
質疑等なし。

5 閉会